

# 行政改革推進会議（第25回）

## 議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

# 行政改革推進会議（第25回）

## 議 事 次 第

日 時 平成28年11月28日（月）17:35～17:55

場 所 官邸4階大会議室

1. 開 会

2. 議 事

平成28年秋の年次公開検証等の取りまとめ

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○山本行政改革担当大臣 ただいまから、第25回行政改革推進会議を開会します。

本日はお忙しい中お集まりをいただき、ありがとうございます。

平成28年秋の年次公開検証では、11月5日土曜日に大阪大学において「大阪レビュー」を、11月10日木曜日から12日土曜日にかけて「秋のレビュー」を実施し、昨年を上回る12テーマ61事業を取り上げ、4日間にわたる議論を行いました。

大阪大学で開催された「大阪レビュー」は、東京以外で開催された初めての行政事業レビューであり、当日は学園祭も行われており、多くの学生に国の行政改革の取り組みに関心を持っていただく良い機会になりました。

今回のレビューでは、テーマごとに造詣の深い有識者にも御参加いただき、成長戦略や女性活躍といった幅広い分野にわたり充実した議論ができたと考えています。

こうした議論の取りまとめの結果については、お手元の資料1のとおりです。

このほかに、資料2で各府省が取り組む事業の改善内容を取りまとめました。

今回、取りまとめた事項に関する各府省の対応状況については、行政改革推進会議において、しっかりとフォローアップしていきたいと考えています。

なお、資料3では、各府省に対して基金の再点検を要請しております。資料4では、各府省が取り組む各特別会計の改善案を取りまとめております。

田中委員、河村委員をはじめとする歳出改革ワーキンググループの皆様には、事業の検証に多大なる御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

また、土曜日を含めて参加した各府省及び行政改革推進本部事務局の皆さんも、御苦勞様でございました。

それでは、委員の皆様から御意見を伺いたく存じます。御発言いただく方は、お手数ですが、ネームプレートをお立てくださいますよう御案内申し上げます。

なお、御発言はお一人2分程度でお願いできますれば大変助かります。

では、田中議員、どうぞ。

○田中議員 ありがとうございます。私は、大阪でのレビューに参加させていただきました田中弥生と申します。今、大臣からも御説明がありましたけれども、大阪レビューについて申し上げたいと思います。

この大阪でのレビューというのは、3つの点で初めてでありました。1つは、大臣がおっしゃられたように、東京以外の地域で行われたということ。2番目に、国立大学を拠点として行ったということ。3番目に、テレビ会議を使って霞が関と繋いだということなのです。これによりまして、東京で行われているレビューという印象が強かったのですが、身近にレビューを感じていただいたり、財政について議論していただいたりすることができました。

また、学園祭ということもありましたが、大学で行ったことによって、若い人たちが手を挙げて参加をしていたということがあります。

また、大学を拠点にしたり、テレビ会議で行ったということで、旅費や会場費をかなり

セーブできたと思います。そういう意味では、コストをある程度抑えながら、広報・発信という意味では良い効果が上がるということで、行政改革らしい会議であったと思います。

最後になりますけれども、この準備をしてくださった大阪大学の皆さん、それからこのロジ面で非常に大変だったと思うのですが、事務局の皆さんに改めてお礼を申し上げたいと思います。

以上です。

○山本行政改革担当大臣 ありがとうございます。それでは、渡議員、お願いします。

○渡議員 ありがとうございます。

私からは、具体的なテーマとして、上下水道分野におけるPFI事業の推進について申し上げます。

昨年制定されました政府のアクションプランでは、本年度中にコンセッション方式のPFIを19案件実現することを目指しております。ところが、そのうち上下水道12件については進捗が大変遅れており、速やかな成功事例を作ることが喫緊の課題となってきております。

こうした中で、先ほど大臣がおっしゃいました「大阪レビュー」におきまして、実際に上下水道分野でPFI採用の検討をしておられます大阪市をお招きして、中身の濃い議論ができたことは大変良かったと思っております。

特に、日頃から行革の観点からPFI事業の推進を後押しし、レビューにまで取り上げていただいた山本大臣を初め政務三役並びに事務局の炯眼に対し敬意を表します。

我が国の上下水道事業は、約70兆円以上の資産総額がありまして、人口減少等で収入が減っていく一方で、施設の老朽化が進んでおり、経営は今後大変苦しくなってくるものと予想されます。

この点、PFIはまさにインフラの維持と財政再建を両立させる切り札であると思えますし、だからこそ政府は真剣にやっておられると思えます。

ところが現状は、自治体首長へのトップダウンアプローチ、法改正、規制の見直し、さらには省庁の縦割り行政の排除等、実現に向けた国の強い覚悟がないとどうにもならない問題が大変多く横たわっています。是非、総理の強いリーダーシップのもと、関係省庁を促し、一丸となってPFI事業を推進させていただきますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます次第であります。

総理がいらっしゃいますので、これはレビューに関係ない話ですが、水素社会の実現につきまして一言申し上げたいと思います。総理が表明されました福島新エネ社会構想、これは福島産の水素を2020年の東京オリパラで利用するということが含まれていると聞いておりまして、関係先から大変強い関心を持って期待されております。

そこで、例えば福島でつくった水素を聖火の燃料として東京オリンピック・パラリンピック等で使用して、福島の復興と我が国の水素先端技術を世界に大きくアピールする機会になったら大変良いのではないかと思います。地方創生、復興、あるいは日本の技術という観点からも、是非御提案を申し上げます次第であります。

以上であります。ありがとうございます。

○山本行政改革担当大臣 大塚議員、お願いします。

○大塚議員 ありがとうございます。私からは3点申し上げたいと思います。

まず、1点目として「大阪レビュー」ですが、大学のキャンパスで行われたことで、若い人にも関心を持っていただく大変有意義な機会になったのではないかと思います。

国民が関心を持っているのは、税金の使われ方だろうと思います。今後は、高校や大学等での公開検証をさらに広げていくのも、手段の一つかと考えます。

2点目は、予算全体の3割超を占める社会保障費の問題です。すでに大変厳しい状況だというのは御承知のとおりですが、国民に事実を丁寧に伝えることも非常に大事なことだと思います。この行政事業のレビューの公開検証でも取り上げてみたらいかがでしょうか。

3点目は、この行政レビューの公開検証の場が、少なくとも各府省が推進したい事業のお墨付きを得る場になってはいけないと思います。納税者の視点に立って議論し、運営をしていただければと思います。

以上です。

○山本行政改革担当大臣 それでは、小林議員、お願いします。

○小林議員 ありがとうございます。私も簡単に3点御報告申し上げます。

まず1点目は、地方開催は今回非常に良かったなと思いました。地方に対する敬意、あるいはこのレビュー自体がマンネリ化に陥らないということを含めて非常に良かったと思います。

一つ課題というのは、属性を分析しておりますと、若い方の興味がまだまだ少ないということも事実でありまして、なかなか難しいことでもありますけれども、来年以降、是非この辺の状況をどうするかということに知恵を絞られなければいけないなという感じがいたしました。

それと、従来言っております、PDCAを回す、適切な成果目標を作る、あるいは成果指標を設定するとか、当たり前ところが非常にできてきたなという感じがいたします。ただ、くどいようですけれども、PDCAをきちっと回すということは必須だということで、これは引き続き厳しくやっていただきたいと思います。

それと3点目、PFI等で感じるのですけれども、民間がこれをテイクオーバーするときに、いろいろなことを「見える化」されるというのは非常に大事だと思いますので、時間をセーブするためにも、PFI等のいわゆる官民の分担ということで議論するときには、「見える化」ということに是非尽力いただければと思います。

以上です。

○山本行政改革担当大臣 土居議員、お願いします。

○土居議員 ありがとうございます。今年も「秋のレビュー」が開催されたことは大変有意義だと思います。継続は力なりと言いますけれども、第2次安倍内閣になってから、毎年「秋のレビュー」を継続して行っているということで、信頼も深まってくると思います。

行政の無駄がまだ残っているのではないかというような声が国民にあると、何かと政府の信頼にも影響を及ぼすわけですけれども、こうやって毎年のように行政改革の取組をやっているということで、最近では行政の無駄があるのではないかということ余り国民は言わなくなってきているような印象があります。それも、こういう形で行政改革を継続して行っているということが非常に実を結んでいるのではないかと思います。

来年も引き続きこういう取組をしていただきますよう、何とぞよろしく願いいたします。

○山本行政改革担当大臣 秋池議員、よろしく願いいたします。

○秋池議員 大阪でのレビューなのですけれども、今回意義がより深かったのは、いずれも政権の重要課題を取り上げたというところがあるかと思えます。どうしてもレビューといいますと、公開で予算を切るショーのようところが過去ございました。ただ、この政権になってからそういうものとちょっと変えてきているということで、特に今回は重要課題について質を上げる議論ができたのではないかと思います。重要な課題だからこそ、意義がある事業に予算を移して行って個々の事業の質も上げる、それから全体のポートフォリオの質も上げるということが意義深く、これゆえに早期の成果につながるということが大変良い取組に進化してきていると感じております。

○山本行政改革担当大臣 ありがとうございます。河村議員、お願いします。

○河村議員 まず、「大阪レビュー」についてですが、本当に広報・広聴効果が抜群であったのではないかと、財政運営に対して国民の参加意識を高める上で大変結構な取組であったと思えます。事務局の御負担がちょっと大変そうかなという気はするのですが、来年以降もできることであれば、どこか大きな都市で持ち回りで、「あなたの町にレビューがやってくる」というような感じでやっていただくと本当はいいのかなと思えます。

もう一つ、私は東京で11月の第2週の幾つかの検証に参加させていただきましたが、その中の一つ女性活躍のところ、こういうテーマを取り上げていただいたことは大変良かったと思えますが、しっかりお取りまとめをしていただいているのですけれども、実際、当日の議論はなかなか担当省庁とかみ合わないところが一部あったり、こちらの評価者は、男性ももちろんいらして、女性の参考人もいらして、いろいろみんなで申し上げるのですが、なかなか受け止めていただけないようなところがあったり、私自身も消化不良感が残りましたし、レビューを御覧下さった方は、もしかしたら男女問わず同じ感想をお持ちかなと。参考人の女性の方からも、本当に改革してくださる気はあるのかしら、お耳を傾けてくださる気はあるのかしら、というお声を終了後伺ったりしましたので、是非しっかりとしたお取りまとめが実行されるように、御指導をお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○山本行政改革担当大臣 それでは、森田議員、お願いします。

○森田議員 私はレビューへは直接参加いたしませんでしたが、いろいろ伺っておりまして、地域も含めて大変新しい試みもされていると思えますし、大きな成果が出てき

ているのではないかと思います。その意味で、継続することは意義があるという土居先生の意見と同じでございます。

ただ、その中身を見てちょっと感じたことを言わせていただきますと、私自身は政策評価に関わっておりますけれども、ある政策がある目的を達成するために、どのようなプロセスを経てそうなるのかという論理をもう少しこれから検証していく必要があるのではないかと感じた次第です。

特に、事前に、ある課題を解決するために、こういう政策を実施すればこういう効果があるということが明確に見えてきませんと、PDCAというお話がございましたけれども、Pそのものが必ずしも明確にならないという気がいたします。PがはっきりしないPDCAサイクルというのは、余り効果がないという気がいたしますので、そのあたり、これからは是非少し注力していただければと思っております。

もう一つは、こうなればこうなるという論理を説明するためにきちっとしたデータが必要だと思えます。そのためには、これはレビューとは直接関係ないかもしれませんが、マイナンバー制度をせっかく導入されたわけですから、これを是非活用するような形で、きちっとしたデータに基づく政策論議をしていただければと思えます。

以上でございます。

○山本行政改革担当大臣 ありがとうございます。

では、麻生副総理から御発言をお願いします。

○麻生副総理・財務大臣 今回の取りまとめにつきましては、有識者の方々から、予算の重点化、効率化等々、いろいろ御意見をいただいて、有益な御指摘をいただいたものだと思います。

財務省としても、行政改革推進本部事務局とこの話をさせていただいて、今回の取りまとめで指摘されました事項につきましては、各省庁とともにいろいろ検討させていただいて、平成29年度の予算編成に当たりまして予算の重点化・効率化に有効に使わせていただきたいと存じます。ありがとうございます。

○山本行政改革担当大臣 最後に安倍総理から御発言をいただきたいと思いますが、プレスが入室しますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○山本行政改革担当大臣 安倍総理、それではよろしくをお願いします。

○安倍内閣総理大臣 委員の皆様におかれましては、安倍内閣発足以来4度目となる秋の年次公開検証に御協力いただきましたことを厚く御礼を申し上げます。

国民の皆様にご負担をいただいている税金が、無駄な歳出や優先順位が低い施策に使われるといった批判は絶対に招かないようにしなければなりません。また、政策の現場で実際の効果が向上するよう、不断の改善が必要であります。

本日、山本大臣から秋の年次公開検証における指摘事項について御報告がありましたが、これらはいずれも重要なものであります。麻生副総理からも御発言があったとおり、予算

編成に的確に反映するとともに、さらに事業の改善に取り組んでいく考えであります。

また、本日皆様から御発言をいただいた点についてもしっかりと受けとめて、今後の政策運営に当たってまいりたいと考えておりますが、特に今回は地方、大阪で行ったということについての意義について、皆様から御紹介がございました。事務局は大変かもしれませんが、立候補をするところがあると思いますので、是非次回も地方を考えていくことによって、国民の正しい行革に対する認識、あるいは関心を高めていく上でも有意義ではないかと思えます。

委員の皆様におかれましては、今後とも引き続き御協力をいただきますようによりしくお願い申し上げます。

○山本行政改革担当大臣 ありがとうございました。プレスの方はここで退室ください。

(報道関係者退室)

○山本行政改革担当大臣 以上をもちまして、会議を終了いたします。ありがとうございました。